

# 令和7年度 株式会社VOICE.W（ボイスウェルフェア）事業計画

## 1. はじめに

令和6年3月に（株）VOICE.Wは開所しました。ご利用者は生活介護5名 児童発達支援0名放課後等デイサービス0名でのスタートでした。開所からはや1年余りが経過した令和6年度末には、生活介護21名 児童発達支援3名放課後等デイサービス5名、計29名の利用者が元気に通所いただいております。今年度は、さらにご利用者に喜んでいただける支援を実施し、興味を持ってご利用いただけることを目標としています。

そのためには職員の介助スキルの強化、ご利用者の意思決定への対応等、丁寧に且つあらゆる観点からご利用者を見つめ直すことが必要です。ご利用者の心の声を聞くことができるよう（株）VOICE.Wの職員が同じ方向を見つめながら価値観を共有し、組織の力を高めることができる1年をしたいと思います。また、重い障がいを持っている人が働く場所を設け、その場所が地域との交流の場となれるよう発信できる施設をめざします。

## 2. （株）VOICE.W 理念

### 【基本理念】

誰もが生まれ育った街で暮らせるよう、たくさんの人たちとの『つながり』を大切に、違いを尊重しあえるようなコミュニティ・街づくりを目指し、対象者とともに地域に貢献することを基本理念とします。

### 【私たちの夢・目標・得たい幸せとは】

自分たちが自分たちらしいられるような居場所を見つけること、つくること、それが私たちの夢です。心の声に耳を傾けながら、大人も子どもも高齢者も障がい者も、生まれ育った街で暮らせるような街づくりを目指しています。私たちにとっての幸せとは、十人十色、心からの笑顔を見る事です。

### 【私たちの想い】

『ご利用者の心の声を聴きたい』 そういう想いを込めて、会社名を『VOICE.W（ボイスウェルフェア）』としました。私たちはVOICE.Wに関わる全ての方が、楽しく、そして『自分が必要とされている』と実感できるような場所になることをめざします。

### 【子どもから大人まで】

VOICE.W（ボイスウェルフェア）では、大人のご利用者と子ども達が一緒に過ごすことがあります。インクルーシブ（すべての人を包み込む）な環境のもと、多様性を受け入れ

る豊かな人間関係の中で、人は育ち喜びも大きくふくらみ花を咲かせます。

### 3. 実施事業

①生活介護事業所 カラフルデイズの運営

②児童発達支援・放課後等デイサービス ひだまりでいずの運営

③相談支援事業所 ことの葉の運営

④小売業の運営

### 4. 2025年度 法人全体の重点目標

①利用者支援の充実及びサービスの質の向上

法人の各事業所それぞれのご利用者の特性を踏まえ、ご利用者にとって安全で快適な日中活動を提供し、よりよい支援内容の充実を図ります。ご利用者の想いに耳を傾けるという姿勢を忘れず、ご利用者の特性に配慮した説明を用いて、自己決定、自己選択を尊重した支援を行います。また、ご家族や関係機関等との信頼関係を構築し、ご利用者を中心にはセスメントに基づいた個別支援計画の作成とPDCAサイクルのプロセスを繰り返し行い、サービスの持続的な成長を促進します。環境整備に関しては、環境改善等の取り組みを推進し、食事環境、作業環境、車いすの設置場所等、施設環境の改善を計画的にすすめます。また、利用者及び職員の健康面にも配慮し健康診断及び毎日のバーソナルチェック等を行います。ご利用者が安全に、そして安心して過ごせるようなサービスが提供できるよう取り組みます。

②福祉人材の確保及び育成

現在、さまざまな分野での労働力不足が社会問題となっています。特に福祉分野における人材確保は非常に厳しい状況となっていますが、当法人においても人材の確保、育成、定着を図ることは最重要課題となっています。ご利用者だけでなく職員においてもやりがいをもって取り組むことができる魅力ある施設になることが、安定した事業運営のために不可欠となります。そのため、個々の職員のスキルの向上を目的とした（職種や経験年数、職務に応じた）法人研修の実施、及び現場において行う人材育成（OJT）の実施等、現場の声を聞きながら行い共有します。また、常勤・非常勤を問わず、適材適所に徹した人材配置・育成を推進し組織力を高め、魅力ある職場になれるよう努めます。

### ③法人事業の安定した運営

めまぐるしく変化する社会情勢の中、法人の責務である法令遵守の徹底に努め、2年目となる2025年度は安定した事業運営が行われるよう、各事業の利用定員と現状の利用者数を把握し、適正な運営となるよう努めます。また、職員体制においては必要及び適正な人数を確保するため常勤職員・非常勤職員ともに多様な働き方を展開し、採用につなげます。そして、(株)VOICE.Wの長期にわたる継続を視野に、今後の事業展開の方向性について検討し「(株)VOICE.Wに来てよかった」と思っていただけるような支援の推進に努めます。

### ④地域との交流及び貢献

法人が地域社会の一員として地域と交流し、貢献できる機会を創出します。施設発信のイベントの開催や施設での販売活動を通して、障がい者福祉についての啓発と、障がいを持っている人もそうでない人も高齢者も子どもも、共に地域のために悩み笑うことができる場所となること、存在になることをめざします。

### ⑤虐待防止のための対策

虐待は身体的虐待・心理的虐待・性的虐待・経済的虐待があります。施設における虐待には、生活支援の場が密室になることや、障がいの特性の理解が不足している、人権感覚の理解が不足している、専門職としての理解が不足しているなど、様々な背景が考えられます。当法人では、人権権利擁護委員会を設置し、虐待マニュアルの理解と虐待防止の体制作りや虐待に対しての意識を、職員一人ひとりにどのように浸透させて行くかを検討します。人権権利擁護委員会は定期的に開催し、虐待研修の実施、アンケートの実施や会議等、虐待への理解が定着するよう取り組みます。

### ⑥リスク管理

ご利用者の安全・事故防止を重要事項としたサービスの質の向上と利用者の満足度の向上を目指す活動をリスクマネジメントの基本とし、その実践・定着に努めます。施設における重大事故を防ぐためにも、日頃発生する軽微な事故やヒヤリハット事例に対し、その原因を分析し課題を見つけ出し丁寧にその芽を摘む努力を行います。

また、施設をはじめサービス提供場面で発生した事故は、職員個々の問題としてではなく組織の問題として捉え組織として対応することが基本であり、それができる体制であることが必要です。職員が安心感をもってリスク情報を出し合い、率直な話し合い、スムーズなコミュニケーションができるような職場風土をめざします。